

答え合わせ・解説

問1	答え 2 プレート	プレート同士がぶつかったり、一方の下へ沈み込んだりする境界部分では、大きな力が発生します。日本列島はこのプレートの境界が複雑に重なる場所にあり、沈み込むプレートに引きずられたり、跳ね返ったりする力が地震の主な原因となっています。この動きによって地殻のひずみが溜まり、活断層が形成されることもあります。
問2	答え 4 ハザードマップ	ハザードマップは、自然災害が発生した際に被害が想定される範囲や、避難場所、避難経路などを地図上に示したものです。各自治体が過去の災害実績や地形データをもとに作成しており、インターネットや広報を通じて住民に提供されています。自分の住んでいる地域のリスクを把握し、災害への備えを高めるための重要な資料です。
問3	答え 2 寒流	親潮のように、高緯度から低緯度へ向かって流れる海流を寒流と呼びます。寒流は水温が低だけでなく、酸素や栄養分が豊富に含まれているため、プランクトンが大量に発生し、魚が集まる豊かな漁場を作り出す特徴があります。
問4	答え 3 集落	この「扇端」と呼ばれる地点は、古くから水を得やすく、集落が形成される中心地となってきました。水利条件が良いことから、生活だけでなく稲作などの農業にも適した場所として、地域の発展の核となりました。
問5	答え 4 潮目	この境界部分を潮目と呼びます。潮目では、北からの栄養分を豊富に含んだ水と、南からの暖かい水が混ざり合い、プランクトンが爆発的に発生します。これを求めて多くの魚が集まるため、非常に豊かな漁場が形成されます。
問6	答え 1 地震	海底で地震が起きると、海底面が急激に隆起したり沈降したりして海面を押し上げ、波となって周囲に広がります。これが津波です。津波は通常の波と異なり、波長が非常に長く、海底全体が動くため、沿岸に到達すると巨大な破壊力を持つようになります。
問7	答え 4 浸水想定区域	浸水想定区域は、河川が氾濫した場合に、どれくらいの深さまで水が浸かる可能性があるかをシミュレーションして示した範囲です。ハザードマップには、浸水深（水がどれくらいの深さになるか）や浸水が継続する時間などが記載されています。この区域を知ることによって、大雨の際の避難行動を早める判断に役立てることができます。
問8	答え 2 氷河	氷河は長期間かけて山を削り取り、カールと呼ばれる円状の窪地や、鋭い尾根を作り出しました。日本アルプスで見られるこれらの地形は、当時の寒冷な気候環境を物語る貴重な遺産です。
問9	答え 4 津波	津波は、海底で発生した地震によって地殻が大きく動き、それに伴って海面が押し上げられたり引き込まれたりすることで発生します。この波は時速数百キロメートルもの速さで広がり、海岸に到達すると高さが急激に増して陸地へ浸水します。通常の波と異なり、海全体が動くため非常に破壊力が大きいのが特徴です。
問10	答え 4 糸魚川静岡構造線	糸魚川静岡構造線（いといがわしずおかこうぞうせん）は、フォッサマグナの西側の境界線を指します。この線は新潟県の糸魚川市から静岡県まで伸びており、地質が大きく異なる地域を分かつ境界線となっています。
問11	答え 2 季節風	冬になると、大陸から吹いてくる寒く湿った季節風が日本アルプスの山々にぶつかって降り注ぎます。一方で、山を越えた太平洋側には乾燥した風が吹き込むため、冬の天候が非常に大きく異なります。
問12	答え 2 果樹園	この特性を利用して、日本では古くから傾斜地や扇状地で果樹栽培が盛んです。果物の中でも特に水はけの良い土壌を好む品種が、扇状地で質の高い収穫を上げています。
問13	答え 2 津波	津波は海面全体が押し上げられる現象であり、通常の風による波とは異なり、到達すると非常に高い破壊力を持って陸地に押し寄せます。リアス海岸のような湾の入り口が狭い地形では、入り口でせき止められた波が湾内で急激に高くなる性質があり、特に甚大な被害が出る恐れがあります。
問14	答え 2 潮目	この2つの海流がぶつかり合う境界線の海域を潮目（しおめ）と呼びます。異なる海流が混ざり合うことで、プランクトンが大量に発生し、それを餌とする魚類が豊富に集まるため、世界でも有数の良好な漁場として知られています。
問15	答え 3 海霧	冷たい海の上で冷やされた空気が霧となり、沿岸へ流れ込む現象を海霧と呼びます。この霧が長時間かかると、日照不足を引き起こし、北海道の太平洋側の農作物の成長を妨げ、冷害の原因となることがあります。